

群 教 セ	G15 - 01
	平 29.264 集
	高 - キャリア

平成 29 年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社ミツバ

長期社会体験研修員 茂呂居 有

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社ミツバは、1946年3月に設立された。自転車のランプが創業当時の製品だが、現在は自動車・バイクのスターターモーターやワイパーシステムなどの電装部品の製造を中心に事業展開している。ミツバの製造している五つの製品が世界トップシェアを誇るなど、独立系自動車部品メーカーであるため、国内全ての自動車メーカーにとどまらず、海外の主要メーカーとも取引がある。

「世界の人々に喜びと安心を提供する」という理念の下、現在では海外での売り上げが7割近くを占めるなど、グローバルに事業を展開している。

2 研修先での主な研修内容

(1) 人事課での研修【4月3日～10月2日、1月8日～3月23日】（研修場所：本社、各工場）

採用・教育チームに所属し、主に新規採用業務と階層別教育業務に携わった。大学卒業予定者の採用業務では自社説明会の会場準備や選考会時の資料の準備、受付や誘導、応募者の書類の整理を行った。高校卒業予定者の採用業務では、採用計画の立案や周辺高校を訪問し求人票を配付した。工場見学では新里工場と赤城工場で案内を行い、階層別教育業務では、新入社員研修や管理者マネジメント研修の会場設営や資料の準備を行いながら本研修を受講した。また、地域貢献活動の一環として桐生八木節祭りのジャンボパレードにミツバグループの新入社員と共に参加し、企画の助言や神輿制作の補助等を行った。

(2) 新里工場での生産実習研修【10月4日～10月28日】（研修場所：新里工場）

新里工場の生産管理課で工場総務の業務を担当した。主に工場見学や研修の準備、来客の対応等に携わった。また、製造3課では四輪スターターモーターの製造工程でモーターの核になるアーマチュアの製造に携わった。

(3) 総務、経理代行業務研修【11月1日～12月29日】（研修場所：株式会社オフィス・アドバン）

総務代行業務では、ミツバグループ会社の社員の年末調整業務における是正や保険料の確認などを行った。その他、名刺の作成や制服の配付、資料発送業務に携わった。経理代行業務では国内出張旅費の承認や伝票の整理、金融機関向けの研修の準備、社員研修の事務局としての業務、グループ会社の月次決算の振替伝票の作成、グループ会社での経理会議に参加した。また、関係会社の工場見学の機会を頂いた。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

社会人に必要な能力である「考える力」「当事者意識」「会話力」の大切さを掲載した。また、製造業がお客様により良い物をより安く提供するために取り組んでいる PDCA サイクルによる改善活動の一例を掲載した。そして、改善活動と学校生活を結び付け、自ら考え主体的に責任を持って行動できる人物になるために学校生活の全てが大切であり、一つ一つの活動に真剣に取り組むことの大切さを伝える内容にした。商業教育を受けた生徒の企業における活躍を紹介するとともに、仕事のやりがいに加え、仕事で役に立っている勉強やもっとやっておけばよかった勉強についてインタビューし、内容を掲載した。生徒が普段の学校生活を振り返り、自己改善につながるように配慮した。

(2) 実践の概要（県立大間々高等学校）

題材名 「社会人になるための準備」（特別活動「ホームルーム」）

対象 普通科第1学年 120名

所属校でアンケートを実施し、現状を把握した上で学校の課題に即した内容の授業を展開した。人事課での研修で学んだ「企業の求める人材」をテーマに生徒の現状を考えさせ、目標を設定しその目標達成に向けた取組に対して改善を加えることの大切さを伝えた。

II 研修成果

1 人事課での研修について

総務部人事課で採用業務に携わり、日本の抱える問題の一つである製造業の人材不足の影響を目の当たりにすることができた。AIやIoTが急速に発達してきている現代で、企業が求める人材の能力について知ることができた。その中でも「考える力」「当事者意識」「会話力」を社会人に不可欠な基礎力として認識し、日々の教育に携わり、生徒に身に付けさせることが必要だと実感した。そのためには教員がチームワークを発揮し生徒と向き合い、個々に応じた指導を充実させていく必要がある。

2 工場での研修について

自分の作った一つ一つの製品が世界中の自動車を動かしていると考ええると、ものづくりのすばらしさを実感することができた。また、その先のお客様の喜びを感じながら研修に臨むことでやりがいを感じた。そして、自分の業務の責務を果たすことはもちろんだが、製造ライン全体を把握する幅広い知識が必要であると感じた。このことを通して全ての仕事の先には社会貢献や喜びがあることを実感した。今後、生徒には「働くことの意義」をよく考えさせキャリア教育の充実を図っていきたい。

3 株式会社オフィス・アドバン（ミツバ関係会社）での研修について

商業教育で育まれた知識や技能が実務において、どのように活用されているかを理解することができた。その中で、今までの経験や知識にとらわれず、原理・原則に基づき物事の本質を見据えることの大切さを実感した。また、情報処理能力は現代では必要不可欠になっている。簿記や情報処理を学習することができる商業教育の強みを生かし、今後も社会で通用する人物の育成に励んでいきたい。

4 キャリア教育実践について

人事課で学んだ「企業が求める人材」と生徒の現状を比較させ、生徒自身の課題を考えさせることができた。企業の改善活動を学校生活に取り入れて、自分の進路実現に向けて自己理解・自己改善を促すことができた。また、一人で考えるよりも他者とコミュニケーションを図ることにより、自分の考え方が大きく広がることも体験させることができた。

III まとめ

一般企業での勤務経験がない私にとって、本研修は生徒を社会に送り出す立場の教員として大きな学びがあった。製造業に関するだけでなく、企業が求める人材についての理解も深められ、より踏み込んだ進路指導を実現できると感じた。また、商業教育を受けた卒業生の成長と活躍を自分の目で確認することができ、商業科教諭として自信を持って今後の教育に携われるとともに、人づくりの自覚と責任を改めて感じる事ができた。今後は本研修の経験を基に他の教員と連携し、より良い学校作りに励んでいきたい。

（担当指導主事 大野 慎一郎）